

Tohoku Gakuin Alumni Association

LUX MUNDI

東北学院同窓会報 [ルクス・ムンディ〜世の光〜]

Vol.19 2015.9



2016年 東北学院は
創立130周年を迎えます



通信

Life Light Love

17万人が繋ぐ、TGコミュニケーション



第2回 TG交流ゴルフ 大会のご案内

東北学院同窓会主催

東北学院同窓会では、昨年より仙台同窓会の事業でありましたTG交流ゴルフ大会を引き継ぎまして、東北学院同窓会主催事業として行っております。

つきましては「東北学院同窓会主催第2回TG交流ゴルフ大会」を下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

日時

平成27年10月23日(金)

会場

仙台カントリーゴルフ倶楽部・
名取コース

(名取市愛島笠島 TEL:022-383-3636)

※詳細はホームページをご覧ください。

表題 ～Lux Mundi(世の光)～

「Lux Mundi(ルクス・ムンディ)」は、ラテン語で「世の光」を意味します。「世の光 わがほこり」と校歌にも出てきますので、東北学院で学んだ方々には馴染み深いものがあると思います。「ルクス・ムンディ(世の光)」は、いうまでもなく東北学院の真の創設者イエス・キリストのことです。そのキリストの光に導かれて、それぞれの人生を歩んでいただきたいとの願いが込められています。

CONTENTS

- 01 ホームカミングデー・TG交流ゴルフ大会 開催の案内
 - 02 特集 世界へ飛翔
 - 積水ハウス株式会社 代表取締役社長 兼 COO 阿部 俊則
 - 東北学院同窓会前副会長／前TGスポーツOB連合会会長 本間 良一
 - ピアニスト・コンポーザー(作曲家) ピーターソン 木村 悦子
 - 10 躍動する同窓生 ～世代を超えたTGの輪～
 - NPO法人 水守の郷・七ヶ宿 理事長／石窯ビザ屋・水守の郷 店主 海藤 節生
 - 三菱地所リアルエステートサービス株式会社 東北支店長 勝又 浩
 - 14 懐かしい風 新しい出会い～同窓生のお店を訪ねて～
 - 有限会社東北工芸製作所 常務取締役 佐浦 みどり
 - 株式会社四戸 横山 芳平・芳恵 ご夫妻
 - 18 代議員会報告 / 収支決算書
 - 20 TGギャラリー
 - 21 TGネットワーク / 土樋キャンパス開発進捗状況
- 巻末 校友課より

表紙

土樋キャンパス空撮

現在、東北学院大学土樋キャンパスでは、大規模な整備計画が進められており、正門前の南六軒丁通りをはさんだ北側隣接地までキャンパスを拡大。その後、老朽化した建物の建て替えを予定しています。表紙の写真は、この工事が始まる前の2013年初秋に撮影されたものです。この風景がどのように変わるのか、どうぞお楽しみに。





記念礼拝のパイプオルガンの音色で心は学生時代にタイムスリップします。そして大学祭(六軒丁祭)開催中の土樋キャンパスを自由に散策し、東北学院博物館やシュネーダー記念中央図書館、東北学院資料室など公開施設をぜひご覧ください。

年に一度の同窓祭、きっと誰かに会えるはず 東北学院 ホームカミングデー [第16回同窓祭]

TOHOKU GAKUIN
Homecoming Day

2015

10/24 sat



東北学院主催

ホームカミングデー記念礼拝 ● 時間/13:00~ ● 会場/ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

東北学院同窓会主催

懐かしい出会いの夕べ

- 時間/17:00~
- 会場/江陽グランドホテル

「懐かしい出会いの夕べ」は会費制です。

参加される方は、10月16日(金)までホームページからお申し込みください。

会費

- 【前売券】女性及び20代男性の参加者:3,000円
- 30代以上の男性:4,500円
- 【当日券】男女共:5,000円

前売りチケットの
お問い合わせは
【庶務部校友課】
TEL:022-264-6468

お客様の喜びを、我が喜びとして。

世界へ飛翔

東北学院の卒業生たちの中には、世界を舞台に活躍している方々が数多く存在します。今回は、業界ナンバーワン企業の経営者から、Jリーグの礎となった組織の立ち上げに尽力した功労者、そしてアラスカ在住のピアニストをご紹介します。



積水ハウス株式会社
代表取締役社長 兼 COO

阿部 俊則

(あべ・としのり)

昭和50年文学部史学科卒

昭和26年生まれ。宮城県登米市出身。大学を卒業後、積水ハウス株式会社入社。東北を中心に営業畑一筋に歩み、平成15年2月東北営業本部長を経て、平成17年2月東京営業本部長、平成18年4月取締役役に就任。平成20年4月より現職。

「人間愛」を基盤に 創業55周年

今年、創業55周年を迎えた積水ハウス(株)。創業以来、「住」に特化した事業を展開し、戸建住宅から賃貸住宅の請負、分譲住宅やマンションの販売、都市開発など、顧客満足度の高い住まいと環境の創造に取り組んできた。創業から積み上げた累積建築実績は、今年1月末までで223万6,414戸。この数字は住宅供給会社として、世界ナンバーワンの実績であり、同社が業界のリーディングカンパニーであることを意味している。

「今日まで、私たちが大切にしてきたこと。それは『人間愛』です。相手の幸せを願い、その喜びを我が喜びとする奉仕の心をもって、何ことも誠実に向き合い、『あなたのために何ができるか』をベースに考え、行動してきました。また経営に関しては、お客様はもちろん、社会にも喜ばれれば、私たちもうれしい。そんな『三方よし』を基本にしてきたのです。住宅会社は、お客様の大切な住まいと快適な暮らしを将来にわたってサポートすることが何よりも大切だと考えています。ですから事業を継続できるサステナブル(持続可能)な組織であり続けるために、社会に必要とされる企業になることを目指してまいりました」と阿部さんは企業理念、そして経営方針について熱く語る。

同社の事業に関して、多くの人は「家に帰れば、積水ハウス」というコミュニケーションワードと共に、良く目にするCMのイメージから、戸建住宅や賃貸住宅を手がける企業という印象をもっている人も多いのではないだろうか。同社はこの「請負型ビジネス」だけでなく、分譲住宅事業・マンション分譲事業・都市再開発事業・国際事業を包括する「開発型ビジネス」、長年愛された積水ハウスの住宅のリフォー

ム工事や管理を担う「ストック型ビジネス」という3つのビジネスモデルを展開。国際事業では北米を始め、オーストラリア、中国、シンガポールへの進出も果たしている。これらの事業を通じて、顧客が抱える課題に対し、丁寧にコンサルティングを行い、快適に安心して暮らせる住まいづくり、まちづくりを展開。顧客と喜びを分かち合える提案を続けていくことが経営理念であり、積水ハウスのコンサルティングの真骨頂でもある。

「住まいを考えることは、社会やまち、地球環境のことを考えることに通じます。ですから私たちは日々、社会が抱えるさまざまな課題と向き合い、住まいづくりを通して解決策を提案してきました。例えば高齢者の方向けの事業の中では、土地オーナーと医療・介護事業者を結び、建築からリースまでを一貫してサポートする体制を整備したり、お客様が快適性を犠牲にすることなく、環境に配慮した暮らしが実現できるエネルギー収支ゼロの住まいのご提案などを行っています。今後も環境・高齢化・ストックをキーワードに、お客様に「積水ハウスがあつて良かった」と言っていただけ企業に成長していきたく思います」。

2008年、住宅業界で初めて環境省から「Eco-Fairst企業」の認定を受けた同社。この認定は各業界を代表する会社のみが認定されるもので、他に先駆けて環境に関する事業活動を着実に進めてきた成果でもある。認定を受けてからも同社の「スマートハウス」や「スマートタウン」といった先進的環境に配慮した事業活動は、さらに加速している。

社会に必要とされる 企業を目指して

積水ハウスでは、2011年3月11日に発生した

東日本大震災直後から、被災地に緊急支援物資を送り届けた。そして、その後の復旧・復興工事、仮設住宅および災害公営住宅の建設や日本初となるスマートタウンの開発など、本業である住宅事業の強みをいかした復興支援活動を続けている。

「3月11日、私は3時から仙台で開かれる会議に出席するために、仙台にきていました。地震発生直後、対策本部を立ち上げて社員の安否確認を行うと共に、お客様の状況確認や物資の支援などを行いました」。

同社とそのグループ企業の社員は、被災3県で1,360人。それに工事店など同社の仕事に携わる人を合わせ、6,600人にのぼる人たちの安否確認を行った。

「重要なのは災害発生直後の初動です。社員の安否確認を行いながら、水や食料が備蓄してある掛川の静岡工場から、支援物資を積んだトラックが地震発生3時間後には仙台に向かって出発しました。私は3日後の午前中に大阪の本社に戻りましたが、このときに感じたのは、全国から本場にたくさんの方々の「何とかしたい」という思いでした。特に関西地区の方々は阪神・淡路大震災を経験していますから、被災地に赴いた人も多かったのです。私たちも当社のお客様を訪問し、お住まいの状況を確認しながら補修を進めると同時に、仮設住宅の建設に取りかかりました。現在、復興住宅の建築が進んでいます。復興はまだ道半ばです。また時間の経過に伴って、様々な課題も出てきていますので、会社として行わなければならないこと、社員がボランティアとしてお手伝いできることは何かを考えながら、これからも長期にわたって、被災地の復興に寄り添ってきたいと思っています。こうした支援活動の中にも、同社の「社会から必要とされる企業になる」という経営理念が息づいている。

自由を満喫した大学時代

住宅業界で世界一の業績を誇る企業の経営者は、東北学院大学でどんな学生生活を送っていたのだろうか。大学時代の様子や、オンとオフの切り替え方などについてお話を伺った。

「民俗学の権威、岩崎敏夫先生のゼミを受け、サークルは民俗学研究会に入って、部長を務めていました。そこで狩猟習俗、いわゆるマタギ習俗の研究をしていたんです。元々、じっとしているのが好きではなかったため、学生時代はよく旅に出ています。

た。マタギ習俗に関係のある土地に赴いて、秋田では民家に泊まらせてもらい、おじいさんやおばあさんに民俗伝承に関わりのある話を聞いたりしていたんです。それから夏休みや冬休みなどの長期休暇は、ずっとアルバイトをしていました。冬は長野の白馬でリフトの切符切りをしたり、日本全国どこにでも一人で出かけていったんです。本当に自由な学生生活を送っていました」。

高校時代、建築に興味があった阿部さんは、建築科に入ろうと受験するが失敗。東京の企業に就職したが、翌年、再度大学を受験。歴史にも興味

をもっていたことから、東北学院大学の史学科に入ったという経緯がある。

「実は私は10年前まで仙台を中心に山形や福島で勤務していたんです。その頃は東北学院の卒業生の方々に『いぶんお世話になりました』」。

大学3年までに必要な単位のほとんどを取得し、4年次は卒論作成のためのゼミに出席だけだったという阿部さん。社会人になって大学OBと接する機会が増えたことで、自分が東北学院大学出身であることを意識し、心強く思うようになったようだ。



困難なときにこそ強さを磨く

国内外を問わず飛び回る多忙な日々を送る阿部さんに、オンとオフの切り替え方について伺った。

「平日は30分ほどの通勤時間を使って集中力を高め、考えを整理したりして、会社に着いたときにはトップスピードで仕事に取りかかれるようにしています。仕事をしている間は、少なからず緊張状態が続きますから、一日の終わりに、仕事モードをオフにすることを意識的にやるようにしています。ですよ。私が一番スーツと緊張がほどけるのを感じるののは、一日の仕事が終わって、お酒を口にしたときでしょうか。最近では夜に宴席があっても、遅くとも11時には休みます。その分、朝早く目が覚めてしまうのですが」と話す笑顔に、大らかで気さくな人間性が見え出す。

そんな阿部さんの好きな言葉は「疾風に勁草を知る」。困難に遭って初めてその人間の本当の強さ

が分かるという意味で使われた『後漢書』王霸伝の一節だ。

「私は決してエリートではありませんし、仕事の現場でビシビシと教育され、育てもらった人間なので、困難にぶち当たったときも『強さが試されているのだ』と思っただけです。そんな私を見て、家内は『お父さんがもっているのは運と度胸だよ』と言っていますよ(笑)。確かに物怖じはしませんが、それが強さかどうかは分かりません。私の場合は、物怖じしない性格に運の良さが味方しているといったところでしょうか」。

「余談ですが」と前置きしてから、阿部さんはこんな話をしてくれた。

「松下政経塾の採用時には、運と愛嬌が大きな基準になっていたと聞いたことがあります。愛嬌とは愛想良く振舞うことではなく、相手のことを考えて行動することです。大学でも『自分がして欲しいと思うことを相手にもしてあげなさい』と

習いましたが、相手を思いやる気持ち、これが愛嬌なんです。愛嬌は社会人のみならず、人間にとって大事なものだと思います」。

最後に東北学院同窓生へのメッセージをいただきました。「大学時代に教えていただいた『地の塩、世の光』は、東北学院の精神であり、社会に貢献するという意味でもあります。まさに被災地の復興のために東北学院の生徒・学生、そして卒業生が力を合わせて、自分たちがやるべきことを具現化する。そのことに価値があるのだと思います。日本全体が、そして世界が被災地を見ています。このような中で、力強く東北の未来を切り拓いていただきたいと思います。もちろん私も東北学院大学の卒業生の一人として、また企業人としてできる限りのことをしていきます」。

東北学院は阿部さんのように日本全国で、そして海外で活躍する同窓生の言葉、行動、思いに支えられている。



JSLの発足に携わった4人の功労者(前列左から)本間良一氏、耳野篤廣氏、西村章一氏、西本八壽雄氏と、(後列左から)日本サッカー協会会長大仁邦彌氏、リーグチェアマン村井満氏。



何事にも誠意をもって取り組む。 結果はあとからついてきます。

東北学院同窓会前副会長 / 前TGスポーツOB連合会会長

本間良一

(ほんま・りょういち)

昭和26年東北学院中学校卒 / 昭和29年東北学院高等学校卒
昭和33年文経学部経済学科卒



出会った人と 運の良さに恵まれて

去る6月9日、日本サッカーリーグ(以下、JSL)発足50周年を記念したパーティが都内で開催され、およそ750人が参加した。その席上で、同リーグの立ち上げに尽力した功労者の一人として本間良一さんが顕彰された。昭和40年JSLは発足、27年継続のち、平成5年に現在の日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に引き継がれた。従ってJSLはJリーグの前身であり、「Jリーグの親」とも称されている。

高校からサッカーを始めた本間さんは、高校では国体及び総体の県予選で優勝、大学では天皇杯全国大会に東北代表として4年連続で

昭和10年生まれ。宮城県石巻市出身。東北学院大学を卒業後、三菱重工業(株)に入社。同時に実業団サッカーの強豪「丸の内御三家」の一画を成すサッカー部に所属した。52年から5年あまり、ドイツ・デュッセルドルフ事務所所長を務め、その間にもサッカー日本代表の世話役として尽力。退職後も途切れることなく地元仙台・宮城はもとより、日本のサッカー界を支える重鎮として活躍している。

出場。2年のときは全国大学サッカー選手権で準優勝を果たした。大学卒業後は三菱重工に入社し、同社サッカー部(浦和レッドダイヤモンズの前身)に所属。天皇杯や全日本実業団選手権で活躍した。現役を引退したのは7年後。そのときにJSLを立ち上げるための常任運営委員になってもらえないかという話がかげられた。当時、実業団クラブの強豪で「丸の内御三家」と呼ばれた三菱重工からは本間さんが、そして古河電工、日立製作所からも委員が選出された。

「日立製作所の耳野篤廣君とともに競技場の確保から入場券の印刷、入場券に税務署の印を押して地方発送する、販売もするといったことまで、総務関係の業務を担当しました。何しろJSLはアマチュア競技における最初の全国リーグでしたから、何でも自分たちで考え、行動しなければならなかった。それが大変でしたね。仕事が終わってから、日立製作所や古河電工の会議室を借りて、よく議論したものです」。

JSL立ち上げに尽力して以降も、本間さんが三菱重工デュッセルドルフ事務所所長としてドイツに赴任したときには、遠征でドイツを訪れた日本代表チームの合宿所を手配したり、試合を含むスケジュールの調整を行ったり、選手たちを自宅に招いて焼き肉パーティを開くなどして元気づけたりもしたという。

三菱重工退職後、TGスポーツOB連合会会長、東北学院高等学校サッカー部ドイツ遠征団長、ベガルタ仙台の運営会社であった(株)東北ハンドレッドの代表取締役専務および顧問、Jリーグ参与など様々な役職を歴任。これまで途切れることなくサッカーに関わってきたことを「出会った人と運の良さに恵まれた」と本間さんは振り返る。



全国大会で歌われる 母校の校歌が聴きたい

本間さんは、叔父が元阪神タイガースの若林志志投手だったこともあり、小学校時代は野球に夢中だったと話す。

「中学でも野球部に入ろうと思ったのですが、月浦校長先生の『全員が身体を鍛えなければならぬ』というお考えの元、運動部の活動が廃止になり、復活したのは私が高校2年のときでした。紆余曲折ありまして、私はサッカー部に入りました。技術的には決して上手いとは言えないチームでしたが、仲間には野球部に行けばエース、柔道部に行けば大将という人もいて、皆、運動神経は抜群、走るのが得意というメンバーが多かったことから、結局、5年ぶりで復活した最初の大会である国体の県予選で優勝してしまっただけですね。あそこで負けていたら、私はサッカーを辞めていたかもしれません」。

長きにわたってサッカーの振興に尽力してきた本間さんに東北学院生、卒業生に向けてメッセージをいただいた。「スポーツに限らず、目の前のことに誠意をもって一生懸命取り組んでください。結果はあとからついてきます。そして校歌という故郷の自然などを織り交ぜたものが多い中、『若人われらの理想の国は…』という母校の校歌はとてすばらしい校歌であると思っています。その校歌を一遍、サッカーの全国大会で歌って欲しいですね」と本間さん。その温和な表情から繰り出される熱のこもった言葉には、多くの人が信頼を寄せる力がみなぎっている。



アラスカの

自然の中から

生まれた音楽



世界へ飛翔

ピアニスト・コンポーザー(作曲家)

ピーターソン 木村 悦子

Etsuko Kimura Pederson

(ピーターソン・きむら・えつこ)

昭和59年経済学部経済学科卒。
昭和35年生まれ。仙台市出身。アメリカ・アラスカ州フェアバンクス在住。3歳からピアノを始め、中学・高校では吹奏楽部でフルートを担当。合奏の楽しさに目覚める。大学卒業後、国際協力の仕事を経て、アラスカ大学音楽学部で学び、演奏科修士課程を修了。アラスカ州において2台・3台のピアノ作品コンサート、震災後はチャリティーコンサートも行う。長年アラスカ大学のビッグバンドでもピアノを担当し、世界的に有名なスイスのモントルージャズフェスティバルなどでもビッグバンドで演奏。ラスムソン財団のアーティスト賞(作曲の部)を2回受賞している。これまで自らの作品を演奏して収録したCDを2枚リリース。仙台でのピアノコンサートは、今回で2回目となる。



仙台の人たちに 聞いて欲しかった曲

その日、ステージには3台のピアノがセッティングされていた。しんと静まり返った空間を揺さぶったのは、3人のピアニストが奏でる重々しい旋律と、和太鼓の迫ってくるような鼓動。ピーターソン木村さんは、故郷・仙台で3台のピアノ復興コンサート」を6月に開催。その最初の曲が『津波I&II』だった。

コンサート当日、会場に集まったたくさんの聴衆は、彼女が作曲した珠玉の現代音楽10作を通して、力強く、温かいメッセージを受け取った。

「震災以来、アメリカでは演奏していた『津波I&II』を仙台の方にも聴いて頂けたらと、コンサートの実現を願いながら、一から準備をはじめました。演奏者も仙台に縁のある方に出会い弾いていただけになりました。東北学院大学を始め、幼稚園、中、高の先輩、同級生、後輩の皆さんにもご協力頂き、本当に多くの方々のご支援もあり無事にコンサートを終えることができました。とてもうれしく思っていますし、皆様には感謝しています」と瞳を潤ませる。

自分が弾きたいと思う 曲をつくらう

高校卒業後、音楽大学に進学しなかったこともあり、彼女は音楽以外の分野でも経験が豊富だ。大学では経済学を学び、卒業後は日本の社会文化を紹介するプログラムで、アラスカ州の高校に半年間滞在した。夫のジェフ・ピーターソンさんに出会ったのはこのとき。その後、2度のアラスカ留学を経て、かねてから



希望していた国際協力の仕事に就き、国際協力事業団(現・国際協力機構JICA)の海外研修員の通訳コーディネーターとして、電力総合開発計画プログラムに携り、エンジニアとも関わった。結婚後は、アラスカ大学音楽学部大学院に在籍しながら、アラスカ大学のロケットプロジェクトにも10年携わった。大学院での勉強や練習、そしてロケットプロジェクトと多忙な日々で、今でもよく乗り切ったと思うと話す。

こと。そして、ピアノは88の鍵盤があり10本の指で弾く場合、音域、ハーモニーは限られるので、88の鍵盤をフルに使い、自分が表現してみたい音楽をダイナミックに作っていかたいと思ったら次々アイデアが浮かんできました。それらは、アラスカの生活を通して生まれた2台、3台のピアノの自由な現代音楽となりました。

「夫はアラスカ大学の地球物理学研究所に勤務したのですが、私が音楽の勉強をすることにもとても協力的でした。クラシックとジャズが自由に学べる大学院への進学を決めたのは、ジャズが好きな彼の影響が大きいです。」

作曲をはじめたきっかけは、「アメリカで多くの音楽家との出会いや共演を通して色々な音楽に触れたこと」だ。彼女が始めたきっかけは、「アメリカで多くの音楽家との出会いや共演を通して色々な音楽に触れたこと」だ。

「思い出は、TMSのことですね。当時は、バンド会議というものが有り、メンバーで演奏したい曲を選び、選曲した録音を耳で聴いてコピーする、そういうやり方でした。それなりに、みんなで音楽を作った楽しい時間でした。また、礼拝の時間とキリスト教学の講義が印象に残っています。アメリカはクリスチャンが多い国ですから、共に分かち合うこと、許す心をもつことの大切さを学ぶ時間があったのはとても良かったですね。アラスカと仙台、それぞれの地で過ごした時間が同じくらいになりましたが、故郷である仙台には時々帰ってきたいと思えます。今年は七夕まつりをみてからアラスカに戻ります」と話す表情に、コンサートを成し遂げた充実感と、故郷への想いがあふれていた。

※3台のピアノ復興コンサート」終了後、皆様にお求めいただいたCDの総額は仙台市に寄付の予定。



タネをまき、芽が出て
どんな花が咲くだろう

蔵王連峰の南に位置する宮城県七ヶ宿在住の海藤さんが、ワカメの生産地として知られる漁場「石巻市北部の十三浜に通って来るのには理由がある。それは「十三浜ワカメうどん倶楽部」の活動のためだ。十三浜を愛する仲間たちで構成するこの集団は、ここでとれたワカメを粉末状にして、蔵王産の小麦粉に混ぜた「十三浜ワカメうどん」を開発した。ワカメの香りがふわりと広がるうどんは、地元の産直センターだった場所を借り受けた「十三浜うどんセンター」で製造され、今年3月からインターネット専用サイトでの販売を開始した。

海藤さんが、知人の要請を受けてこの地を訪れたのは震災直後。「枯れた木を倒して製材機でひいて、バス停やログハウスに再利用したんです。木も生き物だからね。生かさないと」。

復興のためにできることを手伝うなかで、復興のシンボルとして十三浜に石窯をつくり、その横にはポラン

テニアの方々がハーブ園をつくった。いまでは石窯広場として地域の方々が集う憩いの場になっている。さらに海藤さんは、捨てられていためかぶの芯に目をつけ、それを粉にして温麺に入れられないかと、蔵王産の小麦粉を使っている白石温麺の老舗に話をもちかけ、ワカメ温麺を共同開発。これが縁で同店から製麺機械一式を借りられることになり、「十三浜ワカメうどん」の開発・製造につながった。

「石窯はいわば地域づくりのタネ。人が集まってきたことで、ピザ窯の隣に産直センターができ、それが十三浜ワカメうどんの製造拠点になったということは、ピザ窯というタネから、十三浜ワカメうどんという芽が出始めたところなのだと思います。これから地元の人たちが中心になって、どんな花を咲かせるのが楽しみ。でも一人ではできないですから、僕も死ぬまでずっと関わっていきます。七ヶ宿の山にも、十三浜の海にも」と海藤さんは囁みしめるように話す。

「ルールありき」では
良いものは生まれない

大学2年生のときに、麻雀仲間に誘われて軽音楽サークルTMSに入部。そこで初めて、ベースを手にしたという海藤さんは、卒業の年にロックバンド「ハウンドドッグ」のベーシストとしてデビューを果たす。



七ヶ宿の山にも 十三浜の海にも ギョウと 関わってみたい

世代を超えたTGの輪

躍動する同窓生

PROGRESS

各界で活躍する東北学院の卒業生を紹介する「躍動する同窓生」。今回は印刷や出版を通してコミュニケーション支援を図る企業から音楽、演劇、ダンスの各方面で活躍する卒業生をご紹介します。



「当時はサークル内の規定で、バンドの掛けもちが禁止されていました。でも、1年先輩の大友(康平)さんが卒業するときに、ドラムだった大友さんをボーカルにしたライブで盛大に送り出したんです。そのときも、よその学校からドラムを連れて来ました。僕は3年のときに部長になったので、掛けもち禁止のルールを撤廃したんです(笑)」。

プロとして4年間活動したものの、一つの世界に身を置く一生はつまらないと「ハウンドドッグ」を脱退。その後、様々な職業を経験しながら市民活動に携わるようになっていった海藤さん。ごみの分別に力を入れ、いまでは当たり前のように設置されるイベント会場のECSテーションの先駆けとなる活動を繰り返し広げた。その後、七ヶ宿町主催の交流事業に参加した折り、まちの自然や地域の人々に出会い、感銘を受けたことが水守の郷・七ヶ宿の設立へとつながっていく。「都市には都市の課題があり、七ヶ宿には少子高齢化、過疎化、放置山林・農地といった課題があります。それらの課題と向き合い、持続可能な未来づくりのためにできることを実践していこうというのが僕のテーマです。『ルールありき』で考えたり、行動したりすると、いろいろな「コトやモノ」が良くなっていかないと思っんです」と海藤さんは話す。

最後に様々な活動に携わる海藤さんの肩書きを尋ねた。「常に動いていますから、やはり『ロックンローラー』でしょう」という潔い答えが返ってきた。

NPO法人 水守の郷・七ヶ宿 理事長

石窯ピザ屋・水守の郷 店主

海藤 節生

(かいどう・せつお)

昭和55年法学部法律学科卒





いま、やるべきことを
先送りにしない。
それが信条です。

三菱地所リアルエステートサービス株式会社
東北支店長

勝又 浩

(かつまた・ひろし)

昭和62年東北学院榴ヶ岡高等学校卒
平成3年経済学部経済学科卒



世代を超えたTGの輪

躍動する同窓生

PROGRESS

いま、この瞬間に やるべきことは何か

三菱地所グループの法人不動産サービス事業を担う三菱地所リアルエステートサービス(株)東北支店は、東北6県の法人を対象に不動産仲介・コンサルティング事業を軸として、オフィス賃貸や不動産鑑定評価、パーキング事業などの業務を展開している。勝又さんは仙台で7年勤務したのち、15年の東京勤務を経て仙台に転勤になり、この4月に支店長に就任した。

「楽しく仕事をしよう。それを一番に考えています。そのためには個々の能力をどれだけ発揮できる組織にするかがポイントで、私の使命はこの支店で共に仕事をする一人ひとりの強みが何かを見つけて出すこと。そして、それを伸ばすことだと思っています」。

東京に家族を残し、仙台では単身の生活を送る勝又さん。休日返上で仕事をすることも多いと聞き、その理由を尋ねると「仕事が楽しいんです。お客さまに信頼していただき、提案したことが受け入れられ、喜んでいただけたら、こんなにうれしいことはありません。それがこの仕事のやりがいです」と晴れやかな表情で答えた。やるうと決めたことに全力でぶつかっていくバイタリティは、いつ、どこで培われたのだろうか。

「正直、自分ではわかりません。ただ『この瞬間にやるべきことは何か』をいつも考えて行動してきたとは思いません。例えば就職活動のとき、学生でなければ簡単にはお会いできない管理職の方々の名刺を、しっかり保管しておきました。社会人になってから、面接をしてくださった方々全員を再訪問させていただいたんです。皆さん、良く来てくれた

と歓迎してくださり、中には仕事をくださる方もいらっしやいました」。

内定を辞退することを伝えるのに、全て直筆の手紙を送ったという勝又さん。「他の人と自分は何が違うかって、自分には何ができるのかを考え、やるべきことが見えたらそれを先送りにしない。それをずっと続けてきたように思います」。その計画性と行動力が、仕事を楽しむ毎日を生み出しているのだろう。

地元・仙台を より魅力あるまちに

不動産業という、いわばまちづくりにも関わる仕事を続ける中で、「東京で勤務している間も、ここで知識を身につけたり、人脈を広げたりするの、いつか仙台に戻ったときに『何かやってやろう』と思っていました」と勝又さん。

「私が考える活性化とは、仙台で生まれ育った人が他の都市に出て行かない、魅力ある仙台にすることなんです。東京に出て行った僕が言うのも何ですが、仙台にもっとベンチャー企業が育つ土壌をつくるとか、教育支援を手厚くするなど、できる

ことがあると思うのです」。勝又さんが思い描く仙台の活性化の実現には20年、30年と時間がかかる。その覚悟で、本業はもとより、ボランティア活動などを通して、仙台の活性化につながる活動がしたいと意気込む。

そんな仙台生活の中で実感したのが、東北学院の卒業生がさまざまな分野で活躍していること。「仕事柄、企業の経営者や管理職の方々に関わることが多いのですが、東北学院の卒業生がたくさんいらっしやいますね。『私も学院なんです』の一言で、一気に打ちとけられるので、仕事にも大変プラスになっています」と勝又さん。プライベートも含め、100%仕事の毎日。「お酒を控えるのは無理ですし、体調管理が今後の課題ですね」と笑顔で語った。



「玉虫塗」に込められた ストーリーを語り継いでいきます



TOPIC

世界にファンをもつ 「グッチ」とコラボレーション

イタリアのファッションブランド「グッチ」とのコラボレーションで、文字盤に「玉虫塗」を施した腕時計を2014年冬に発売。デザイン性の高さ、丁寧な手仕事に注目が集まり、たちまち完売しました。佐浦さんは「グッチさんは大変有名な会社ですが、弊社や職人に対して敬意をもって接して下さったことがとても印象に残っています」と話しています。



懐かしい風 新しい出会い

同窓生のお店を訪ねて 19

有限会社東北工芸製作所
常務取締役

佐浦 みどり (さうら・みどり)

平成4年法学部法律学科卒



有限会社 東北工芸製作所

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉3-3-20-1F

TEL.022(222)5401

【営業時間】AM10:00~PM6:00

【休業日】日曜日・祝日・第2、第4土曜日

【ホームページ】<http://www.t-kogei.co.jp/>



伝統工芸品であり、
ベンチャーでもある

漆塗りの伝統的な下地を施した器に、銀粉やアルミニウムなどを蒔き、その上から染料を加えた透明な漆を塗って仕上げられる「玉虫塗」。佐浦みどりさんは、その技術を継承する東北工芸製作所の常務を務めている。「玉虫塗は昭和初期に東北の産業発展や輸出振興を目的に設立された国立工芸指導所で生み出された技法なんです。それを商品化するために東北帝国大学、いまの東北大学金属研究所の支援を受けて、昭和8年に弊社が設立されました」。産学官連携から生まれた「玉虫塗」は伝統工芸品であり、ベンチャーでもある。

佐浦さんは3代目となるご主人との結婚が決まると同時に同社に入社、おもに事務の仕事を担当してきたが、6年ほど前に店長を任された。震災が起きたのは、その新しい仕事に取り組み始めたときだった。「弊社は地元の記念品需要が中心ですので、震災の影響で行事などが中止になり、予約が全てキャンセルになってしまいました」。別の地域でも売れる商品をつくる必要があるのではないかと考え始めていたころ、期せずして宮城県出身のクリエイターが、同社の商品づくりに協力することになった。「そこで生まれたのが『TOUCH CLASSIC(タッチ・クラシック)』で

す。地元の方々に愛され、昭和60年にはみやぎの伝統的工芸品にも指定された玉虫塗ですが、これからは国内外を問わず、どなたにも受け入れていただける洗練されたデザインのものもつくっていくと決め、従来の商品とは一線を画す黒を基調に仕上げたのが特徴です。現在、東京のセレクトショップなどに置いていただいています。とても評判がいいんですよ」と佐浦さん。ものづくりに対する丁寧さが、手から手へと伝わり、広がっている。

充電期間だった 大学での4年間

「大学時代は、サークル活動や学外活動で多くの方と知り合うことが多く、就職するまでの間、学ぶ機会も多かった。好きなことをして楽しんで4年間があり、その後、就職してからも仕事にも楽しく打ち込めるようになったのだと、今感じています。また社会人になってからも、東北学院のOB・OGが身近にいらっしやるので、お力を借りることも多いんです」。

最後に今後の抱負を伺うと「創業から81年が経過しましたが、100周年、そしてその先もずっと仙台で生まれた『玉虫塗』のストーリーを語り継いでいきたいと思っています」と決意を込めて語ってくれた。

地域の人々の暮らしの空間を より豊かに彩っていききたい



株式会社 四戸
〒988-0832
宮城県気仙沼市榎181
TEL.0226 (22) 3281

音質の良さに惚れ込んだ 円筒形のスピーカー TOPIC

ユニークな円筒形の正体はスピーカー。音も大事なインテリア要素の一つと考える横山ご夫妻が、その音質の良さに惚れ込んだことから販売を手がけるように。ご自宅のリビングでも、日頃から大活躍しているそうです。

「本当に途方に暮れましたが、悲しみに沈んでいる暇はありません。何とかお世話になっている本吉の建具屋さんの一角を間借りすることができ、3年かかっただけで現在の地に引越すことができました。津波で何もかも失って、あらためて地域のために力を尽くしていきたいという気持ちが強くなりました。これからも、その思いは変わらずもち続けていきます」。

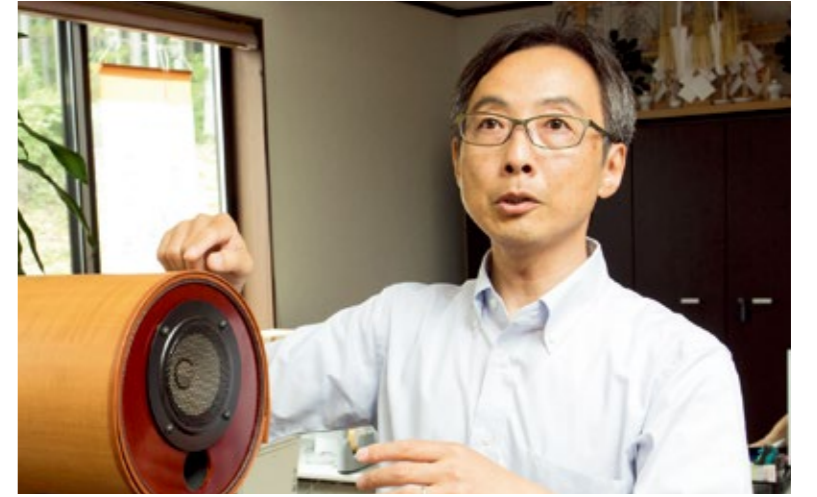
**地域に
育てていただいている
会社として**

大学時代は互いにサークル活動に打ち込んだと言う横山さんご夫妻。
「私は旅行研究会に入りました。常に刺激を与えてくれる仲間との活動は、それはもう楽しく充実したものでした。同級生で東北パイプライン工業(株)(東松島市)の社長を務める松本鉄幹君もメンバーの一人で、いまなお交流が続いています」と芳平さん。芳恵さんは邦楽部を選択。学祭や発表会に向けてお琴の練習をするのですが、まったくの初心者だったのでかなりがんばった記憶があります」。

芳平さんに今後のビジョンを訊ねた。「私も妻もインテリアコーディネーター資格をもっているので、トータルな空間のご提案を行ってあげたいというのが一つ。そしてもう一つは、地域に根ざし、地域に育てていただいている会社として、培ったものを次の世代へきちんと渡していきけるような、そんな強い体制をつくっていくことが使命と考えています」。

懐かしい風 新しい出会い

同窓生のお店を訪ねて 19



株式会社 四戸

横山 芳平 (よこやま・よしへい)

昭和61年経済学部商学科卒

横山 芳恵 (よこやま・よしえ)

昭和61年経済学部商学科卒

震災がもたらした 気仙沼への思い

昭和8年に妻の芳恵さんのご尊祖父が創業。以来80年以上にわたり、気仙沼を拠点に良質な木製建具や襖、アルミサッシ等の製作・販売を続けている(株)四戸。3代目として舵取りを行う夫の芳平さんの前職は化粧品品の営業マン。

「大学卒業後、10年間勤務していましたが。後を継いでいた妻の妹の結婚を機に退職し、代表に就任しました。ただ、3年ほどは仕事の流れや地域性に馴染めず、義父とぶつかることもたびたびあり大変でした。徐々に仕事に慣れてくるにつれ、熟練の職人が丹誠込めてつくくる製品の質の高さはもちろん、それが地域の人々の生活の中で残っていくということに大きなやりがいを感じ、俄然おもしろくなりました」。

転機が訪れたのは、平成23年3月11日。東日本大震災によって引き起こされた津波が、まちを飲み込んだ。横山さん一家は奇跡的に助かったものの、社屋は流され、会長を務めていた芳恵さんのご尊父も帰らぬ人に。

「本当に途方に暮れましたが、悲しみに沈んでいる暇はありません。何とかお世話になっている本吉の建具屋さんの一角を間借りすることができ、3年かかっただけで現在の地に引越すことができました。津波で何もかも失って、あらためて地域のために力を尽くしていきたいという気持ちが強くなりました。これからも、その思いは変わらずもち続けていきます」。

平成27年度東北学院同窓会代議員会次第

日時：平成27年5月15日(金)13:15～ 場所：仙台国際ホテル2階「平成の間」

議事については以下の通り

議 事

- (1) 学校法人東北学院評議員の推挙報告について(了承)
- (2) 東北学院同窓会TG会の解散・名称変更について(了承)
- (3) 東北学院同窓会会則改正(案)について(承認)
- (4) 平成26年度東北学院同窓会庶務報告について(了承)
- (5) 平成26年度同窓会支部・TG会等開催報告(了承)
- (6) 平成26年度同窓会支部等活動費補助利用状況報告(了承)

- (7) 平成26年度東北学院同窓会収支決算報告について(了承)
- (8) 平成26年度東北学院同窓会財産目録(了承)
- (9) 平成26年度監事監査報告書(了承)
- (10) 平成27年度東北学院同窓会事業計画(案)について(承認)
- (11) 平成27年度東北学院同窓会収支予算(案)について(承認)
- (12) 東北学院同窓会役員(会長・副会長・監事)の選任について(承認)
- (13) 東北学院同窓会役員(常任委員・代議員)の報告について(了承)

平成27年度 東北学院同窓会収支予算

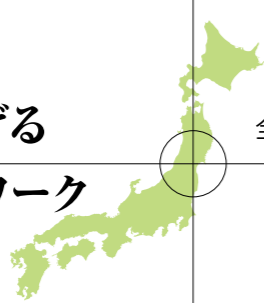
自 平成27年4月 1日
至 平成28年3月31日

収入の部					支出の部					
科 目	27年度予算額	26年度予算額	増減(27年度-26年度)	備 考	科 目	27年度予算額	26年度予算額	増減(27年度-26年度)	備 考	
前年度繰越金	23,148,406	28,641,415	△ 5,493,009	27年度予算額に前年度654,885円を含む	総 会 費	100,000	100,000	0	会場使用料	
入 会 金	9,978,000	10,140,000	△ 162,000	@3,000円	集 会 費	4,500,000	4,000,000	500,000	支部総会・TG会総会等への出席費	
内 訳	大 学 院	24,000	21,000	3,000		旅 費 交 通 費	7,000,000	7,000,000	0	支部総会・TG会総会等出席旅費
	法 務 研 究 科	0	0	0		活 動 補 助 費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	支部総会・TG会総会活動補助
	文 学 部	1,371,000	1,368,000	3,000		印 刷 費	7,000,000	8,000,000	△ 1,000,000	同窓会便覧・3L通信等印刷費・各種封筒等印刷費
	経 済 学 部	1,980,000	2,016,000	△ 36,000		通 信 費	1,000,000	1,000,000	0	郵便料金・宅配郵送料・切手はがき・3L通信発送費等
	経 営 学 部	954,000	963,000	△ 9,000		広 報 費	5,000,000	5,500,000	△ 500,000	東北学院へ(学院時報費)・各種広告
	法 学 部	1,038,000	945,000	93,000		ク リ ス マ ス 費	500,000	500,000	0	東北学院へ
	教 養 学 部	1,215,000	1,185,000	30,000		TG十五日会費	4,000,000	4,000,000	0	講師謝礼・会場費等
	工 学 部	1,422,000	1,452,000	△ 30,000		人 件 費	2,000,000	2,000,000	0	TGSSサポートスタッフ
	高 校	660,000	699,000	△ 39,000		業 務 委 託 費	6,500,000	6,500,000	0	派遣職員(2名)の派遣費用
	櫛ヶ岡高校	873,000	990,000	△ 117,000		福 利 厚 生 費	1,500,000	1,500,000	0	叙勲祝金他慶弔費等
中 学 校	441,000	501,000	△ 60,000		会 議 費	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	常任委員会等各種委員会会場費	
会 費	39,771,800	40,053,000	△ 281,200	大学@3,000円 中学・高校・櫛ヶ岡@1,800円	備 品 費	400,000	400,000	0		
内 訳	大 学 院	273,000	297,000	△ 24,000		事 務 費	300,000	300,000	0	事務消耗品等
	法 務 研 究 科	9,000	15,000	△ 6,000		雑 費	2,500,000	4,000,000	△ 1,500,000	卒業記念品・ホームページ保守・各種手数料
	文 学 部	5,682,000	5,718,000	△ 36,000		オリジナル品制作費	3,500,000	3,500,000	0	支部・TG会総会参加者記念品・ゴルフ大会・ホームカミングデー参加記念品
	経 済 学 部	8,361,000	8,235,000	126,000		TG会館建設資金並びに運営資金	0	5,000,000	△ 5,000,000	
	経 営 学 部	4,326,000	4,383,000	△ 57,000		TG交流ゴルフ大会	700,000	0	700,000	ゴルフ大会経費
	法 学 部	4,656,000	4,623,000	33,000		ホームカミングデー	6,000,000	5,500,000	500,000	ホームカミングデー経費
	教 養 学 部	5,736,000	5,688,000	48,000		サテライトステーション	4,700,000	5,000,000	△ 300,000	
	工 学 部	6,240,000	6,315,000	△ 75,000		東日本大震災 教育支援経費	2,000,000	2,000,000	0	支部のある自治体へ教育支援
	高 校	2,039,000	2,041,200	△ 2,200		同窓会記念事業費	2,500,000	0	2,500,000	東北学院へ寄付
	櫛ヶ岡高校	1,598,400	1,830,600	△ 232,200		同窓会奨学事業費	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	
中 学 校	851,400	907,200	△ 55,800		予 備 費	12,308,206	12,834,415	△ 526,209		
時 報 購 読 料	3,000,000	4,300,000	△ 1,300,000	2,000円×1,500人	合 計	80,508,206	87,134,415	△ 6,626,209		
事 業 収 入	2,300,000	1,750,000	550,000	ホームカミングデーチケット代、TG交流ゴルフ大会参加費	科目間及び予備費の流用については、三役会議の了承を得て執行いたします。					
TG十五日会	1,500,000	1,500,000	0		TG会館建設資金	165,000,000			備 考	
寄 付 金	360,000	300,000	60,000		並びに運営資金	0	0	165,000,000	七十七銀行、仙台銀行	
TG会館建設資金並びに運営資金繰入収入	0	0	0							
雑 収 入	450,000	450,000	0	預金利息とオリジナルグッズ販売等						
合 計	80,508,206	87,134,415	△ 6,626,209							

平成26年度 東北学院同窓会収支決算書

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

収入の部					支出の部					
科 目	予 算 額	決 算 額	増減(予算額-決算額)	備 考	科 目	予 算 額	決 算 額	増減(予算額-決算額)	備 考	
前年度繰越金	28,641,415	28,641,415	0		総 会 費	100,000	94,446	5,554	代議員会費	
入 会 金	10,140,000	10,125,000	15,000	@3,000円	集 会 費	4,000,000	4,385,000	△ 385,000	支部総会・TG会総会等出席費	
内 訳	大 学 院	21,000	21,000	0		旅 費 交 通 費	7,000,000	6,563,120	436,880	支部総会・TG会総会等出席旅費・ホームカミングデー旅費等
	法 務 研 究 科	0	0	0		活 動 補 助 費	3,000,000	1,676,413	1,323,587	支部総会・TG会総会等活動費補助
	文 学 部	1,368,000	1,365,000	3,000		印 刷 費	8,000,000	8,419,032	△ 419,032	同窓会便覧・3L通信・封筒等印刷費・ホームカミングデー印刷費
	経 済 学 部	2,016,000	2,010,000	6,000		通 信 費	1,000,000	896,934	103,066	郵便料金・宅配郵送料・振込手数料・海外時報送費・切手はがき等
	経 営 学 部	963,000	963,000	0		広 報 費	5,500,000	2,010,000	3,490,000	東北学院へ(学院時報費)
	法 学 部	945,000	942,000	3,000		ク リ ス マ ス 費	500,000	273,065	226,935	公開東北学院クリスマス経費の50%東北学院へ
	教 養 学 部	1,185,000	1,185,000	0		TG十五日会費	4,000,000	3,282,995	717,005	講師謝礼・会場費等
	工 学 部	1,452,000	1,446,000	6,000		人 件 費	2,000,000	1,800,000	200,000	東北学院サテライトステーションサポートスタッフ 2名分給与
	高 校	699,000	699,000	0		業 務 委 託 費	6,500,000	5,954,688	545,312	派遣職員(2名)
	櫛ヶ岡高校	990,000	993,000	△ 3,000		福 利 厚 生 費	1,500,000	931,600	568,400	叙勲者祝金・香典・生花
中 学 校	501,000	501,000	0		会 議 費	2,000,000	547,176	1,452,824	各種委員会会場費等	
会 費	40,053,000	39,450,300	602,700	大学@3,000円 中学・高校・櫛ヶ岡@1,800円	備 品 費	400,000	202,392	197,608	業務用中古パソコン	
内 訳	大 学 院	297,000	252,000	45,000		事 務 費	300,000	106,361	193,639	消耗品費等
	法 務 研 究 科	15,000	12,000	3,000		雑 費	4,000,000	1,952,573	2,047,427	各種手数料・卒業記念品・同窓会ホームページ保守・ホームカミングデー経費等
	文 学 部	5,718,000	5,613,000	105,000		オリジナルグッズ制作費	3,500,000	3,278,092	221,908	支部・TG会記念品・ゴルフ大会・ホームカミングデー参加記念品
	経 済 学 部	8,235,000	8,076,000	159,000		TG会館建設資金並びに運営資金	5,000,000	5,000,000	0	2年毎に5,000,000円組入れ
	経 営 学 部	4,383,000	4,347,000	36,000		TG交流ゴルフ大会	0	423,392	△ 423,392	ゴルフ大会経費
	法 学 部	4,623,000	4,581,000	42,000		ホームカミングデー	5,500,000	4,994,115	505,885	ホームカミングデー出合いの夕べ経費
	教 養 学 部	5,688,000	5,619,000	69,000		サテライトステーション	5,000,000	4,661,913	338,087	同窓会負担(賃借、共益、消耗品)2人・人件費1名分、サポートスタッフ2名分傷害保険
	工 学 部	6,315,000	6,174,000	141,000		東日本大震災 教育支援経費	2,000,000	1,721,930	278,070	17自治体 図書カード等
	高 校	2,041,200	2,034,600	6,600	月@150円(年1,800円以下)@1130人分	同窓会記念事業費	0	0	0	
	櫛ヶ岡高校	1,830,600	1,830,150	450	月@150円(年1,800円以下)@1016人分	同窓会奨学事業費	3,500,000	2,350,000	1,150,000	奨学金 中・高・履修奨励金@15万円、大学3名@30万円、奨励金 履修奨励金1件@10万円
中 学 校	907,200	911,550	△ 4,350	月@150円(年1,800円以下)@906人分	予 備 費	12,834,415	0	12,834,415		
時 報 購 読 料	4,300,000	2,010,000	2,290,000	2,000円×1,005名	小 計	87,134,415	61,525,237	25,609,178		
事 業 収 入	1,750,000	2,071,000	△ 321,000	ホームカミングデーチケット代、TG交流ゴルフ大会参加費	次年度繰越金	0	23,148,406	△ 23,148,406		
TG十五日会	1,500,000	1,563,000	△ 63,000	1人1,500円、11回開催	合 計	87,134,415	84,673,643	2,460,772		
寄 付 金	300,000	459,020	△ 159,020	38件						
TG会館建設資金並びに運営資金繰入収入	0	0	0							
雑 収 入	450,000	353,908	96,092	預金利息・オリジナルグッズ販売						
合 計	87,134,415	84,673,643	2,460,772							



同窓会支部一覧 86 支部

平成27年9月1日現在

宮城県		北海道		岩手県		山形県		関東		東海・近畿			
仙台同窓会	名取支部	札幌支部	盛岡支部	山形支部	東京支部	東海支部	仙台支部	神奈川支部	静岡支部	近畿支部			
青葉支部	岩沼支部	旭川支部	一関支部	上山支部	神奈川支部	静岡支部	岩見沢支部	栃木県支部	近畿支部				
泉支部	亘理支部	岩見沢支部	奥州支部	寒河江支部	栃木県支部	近畿支部	帯広・十勝支部	群馬支部					
太白支部	柴田支部	釧路支部	釜石支部	酒田支部	群馬支部		大河原支部	武蔵野支部					
宮城野支部	村田支部	函館支部	北上・和賀支部	新庄支部	武蔵野支部		若林支部	水戸支部					
秋保支部	川崎支部	室蘭支部	気仙支部	天童支部	水戸支部		秋保支部						
多賀城支部	宮城蔵王支部		紫波支部	米沢支部			多賀城支部						
岩切支部	角田・丸森支部		宮古支部				岩切支部						
利府支部	白石支部	青森県					利府支部						
塩釜支部	黒川支部	青森支部	秋田県	福島県	信越・北陸	中国・四国・九州	塩釜支部	黒川支部	青森支部	秋田県中央支部	福島県北支部	新潟支部	広島支部
松島支部	大崎支部	八戸支部	秋田県大館支部	会津支部	信州支部	四国支部	松島支部	大崎支部	八戸支部	秋田県大館支部	会津支部	信州支部	四国支部
鳴瀬支部	登米支部	弘前支部	秋田県南支部	いわき支部	北陸支部	九州支部	鳴瀬支部	登米支部	弘前支部	秋田県南支部	いわき支部	北陸支部	九州支部
石巻支部	美里支部	上十三支部		郡山支部			石巻支部	美里支部	上十三支部		郡山支部		
女川支部	涌谷支部			相馬支部			女川支部	涌谷支部			相馬支部		
志津川支部	栗原支部			南相馬支部			志津川支部	栗原支部			南相馬支部		
気仙沼支部	鳴子支部			双葉支部			気仙沼支部	鳴子支部			双葉支部		
													北米
													北米支部

東北学院大学土樋キャンパスの整備工事が着々と進んでいます

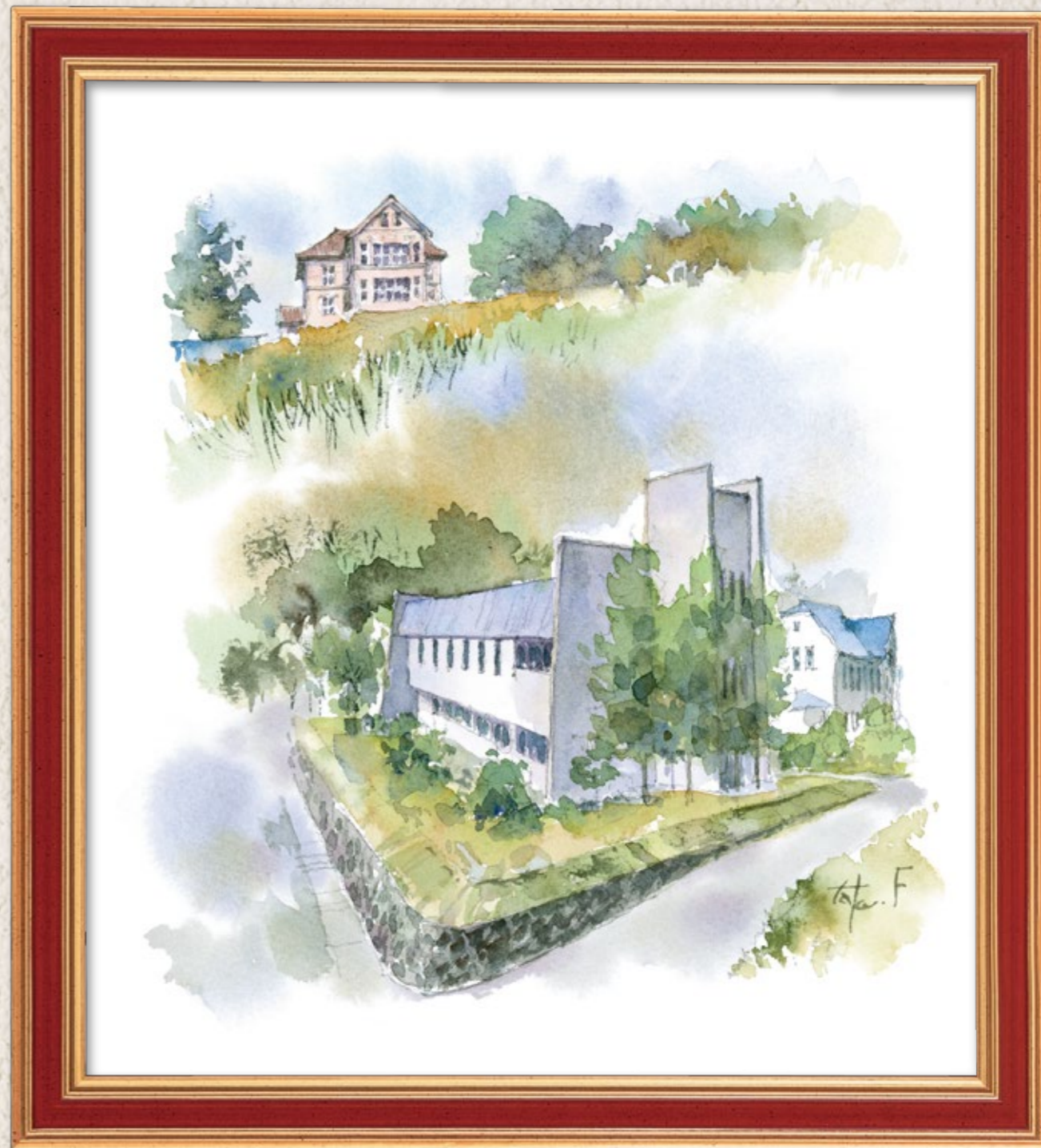


2015年7月現在の進捗状況



昨年10月16日に行われた起工式から数ヶ月が経過した現在、東北学院大学土樋キャンパスの正門前北側隣接地における新校舎建設工事が、着々と進められています。新校舎には教室や研究室、学生が主体的に学ぶことができるラーニング・コモンズのための広い空間が誕生。また市民対象の各種イベントが開催できる多目的ホールや食堂(カフェ)も設置され、市民に開かれたキャンパスになります。工事の進捗率は7月末で30.7%。2016年3月の完成をめざしています。

【情報をお寄せください】全国で幅広い活動を行う支部、TG会の活動報告の場です。皆様の情報をお待ちしております。(情報は校友課まで)



TG Gallery
セミナーハウス(青根・高山)
Taka Furuyama

古山 拓。昭和61年 文学部史学科卒。昭和37年岩手県に生まれる。アニメーター、印刷会社、デザインプロダクション勤務を経て、平成6年、フリーイラストレーターとして独立。東北、東京等各地で風景水彩画の個展を開催。個展発表と広告美術の二本の柱で活動中。日仏現代美術博「ARTEC 造形美術賞」受賞。パリで開催された国交省イベント「ようこそ東北へ」では、東北風景紹介作家としてメイン展示。アトリエ名/ランズエンド。洋画家 故・杉浦朝雄氏に師事。●東北イラストレーターズクラブ会員 ●(社)宮城県芸術協会会員

東北学院大学

土樋キャンパス

大学院: 文学研究科・経済学研究科・経営学研究科
法学研究科・法務研究科

学 部: 文学部・経済学部・経営学部
法学部(各3・4年)

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス

大学院: 工学研究科

学 部: 工学部

〒985-8537 多賀城市中央一丁目13番1号
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス

大学院: 人間情報学研究科

学 部: 文学部・経済学部・経営学部
法学部(各1・2年)・教養学部

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655

3L通信編集委員会

委員長	同窓会副会長・法人事務局長	斎藤 英夫
副委員長	同窓会副会長	峯岸 良造
委 員	東北学院庶務部長	八島 康治
	東北学院大学学長室長・経済学部教授	阿部 重樹
	同窓会若林支部幹事長(代議員)	亀岡 幸康
	同窓会宮城野支部(代議員)	菊地 茂
	法学部同窓会副会長	
	仙台同窓会事務局長(代議員)	舘崎 智信
	同窓会太白支部(代議員)	
	法学部同窓会副会長	高橋 公晴
	エアテックTG会事務局長(代議員)	馬場 弘幸
	東北学院広報部広報課長	内海 睦夫
	東北学院庶務部校友課長	増田 敏
	東北学院庶務部校友課係長	大沼健一郎
	東北学院庶務部校友課	安部 茂徳

発行日 / 2015(平成27)年9月1日

発行所 / 東北学院同窓会(事務局: 庶務部校友課)

発行人 / 後藤 久幸

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

TEL.022-264-6468 FAX.022-214-0404

URL : <http://www.tg-alumni.jp>

E-mail : dousou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

印 刷 / 株式会社ユーメディア

校友課より

「個人情報保護法」への取り組みについて

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたのに伴い、東北学院では園児・生徒・学生をはじめ卒業生等の個人情報の取り扱いについて「学校法人東北学院個人情報保護規程」を定め、個人情報の適正な管理と保護に務めています。

校友課では、東北学院同窓会の運営に必要な皆様の個人情報をお預かりしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。詳細については、東北学院ホームページに掲載していますのでご覧下さい。

なお、東北学院同窓会で使用する個人情報の利用目的は、次の通りです。

- ◇「東北学院時報」並びに「3L通信—Lux Mundi」の送付
- ◇「東北学院時報」購読料徴収に関わる事務
- ◇ホームカミングデー「懐かしい出会いの夕べ」の案内及び参加費徴収に関わる事務
- ◇各支部・TG会などが主催する総会及び行事の案内
- ◇その他、上記に関連する業務

住所等変更届のお願い

同窓生の皆様には、お名前・ご住所・電話番号に変更が生じましたら、お手数でも校友課までご連絡下さいますようお願いいたします。お預かりする皆様方の個人情報は慎重に取り扱い、同窓会に関する利用目的以外には使用いたしません。特に「東北学院時報」と「3L通信—Lux Mundi」は、皆様と母校を結ぶ通信手段として欠かせないもので、ぜひご協力をお願いいたします。なお、住所変更届は東北学院同窓会公式ホームページからも行うことができます。

お名前の「旧字体」や「特殊文字」の扱いについて

東北学院では、今年中に、同窓生情報のシステムの変更を予定しております。

システムの変更に伴い、お名前に旧字体や特殊文字をお使いの方は、会報の送付の際などに、常用の字体(JIS第二水準)に置き換えて表記させていただくこととなります。皆様方には、予めご了承いただきたく、ご理解とご協力をお願い申し上げます。